

日合協

2.1%減、初の700万ト割れ

4～6月のアス合材製造量

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦社長）がまとめた会員企業の

2025年度第1四半期（4～6月）のアスファルト合材製造数量（速報値）は、

前年同期比2.1%減の694万トだった。前年割れは5年連続で、過去最低を

更新し、初めて700万トを割り込んだ。全国10地域のうち、前年に続いて増加

したのは北陸だけだった。能登半島地震の復旧工事からの需要とみられている。

工場の全国平均の稼働率は27.1%（前年同期値27.3%）に低下した。

製造数量の内訳は、高速

道路などへの新規材が0・

8%減の178万ト、一般

道向けなどの再生材が2・

5%減の515万ト。製造

数量は4月が前年同月比1

・9%減の223万ト、5

月が2・3%減の222万

ト、6月が2・1%減の2

48万トだった。前月を下

回るのは5カ月連続。

全国10地域の第1四半期

の製造数量は、前年同期を

上回ったのが北海道、北陸、

中部、沖縄。北陸のうち、

地震の被害が集中した石川

県は前年同期比21・4%増

の16万ト、47都道府県で最

も増加率が大きかった。前

年同期から連続して増加し

たのは山梨、富山、石川、

滋賀の4県だった。

工場の稼働率は30%を超

えたのが関東（稼働率36・

4%）、北陸（34・6%）

にとどまり、四国と沖縄は

20%を下回った。

